

道東地区教会連合会機関誌



道東 37 こ う ほ う 光 報



'DŌTŌKŌHŌ', Newsletter of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No. 37 Nov., 2016

巻頭言 「人を思うということ」

釧路教会 千葉利樹

8月17日に、十勝教会三代
教会長、玉置徳衛先生がご逝
去されました。

私が父に連れられ、初めて
汽車に乗って、初めて金光教
会にお参りしたのは、昭和32
年頃の中学生の時と記憶して
おり、池田町にある十勝教会
でした。

妙なことで、教会に着いて
外にあるトイレに入ったこと
を覚えており、そこで父から
「ここはこれからお前がお参
りする教会だ」と言われ、何
のことかと思いつながら、お広
前でお会いした、二代教会長
玉置実先生のお姿から、それ
まで人から受けたことのない
優しさを感じたことが思い出

されました。

社会人になった私は、ある
きっかけから、「この地球上
に存在する人間が神としてい
ただくとしたら、金光教とい
う天地金乃神様しかない」と
の確信を得て、妻と共に釧路
にある教会で熱烈な信心を求
めることになり、やがて父へ
の感謝の思いから、いつのま
にか二代目になっておしまし
た。

あるとき、十勝教会のご大
祭に参拝しましたら、徳衛先
生が「千葉さん、このふすま
の欄間の格子細工は、お父さ
んが若いときに作ってくれた
ものですよ」と、二箇所に取り
付けられた格子細工を教え

てくださいました。

素人目にも細かく細工さ
れ「父が一度も話してくれ
なかったのに」と、建具職
人であった無口な父を思う
のでした。

時が流れて、十勝教会に
取り付けられていた二つの
欄間細工は、今、私の自宅
に設置されているのです。
それは、十勝教会が新築さ
れる時を同じくして、私の
自宅も新築を進めており、
十勝教会から「教会を新築
するに当たり、お父さんが
作った欄間細工を譲りたい」
とのお話があり、御神殿を
奉る部屋の欄間と、寝室と
クローゼットの欄間に取り

付けることとなったのです。御霊神となった、御神殿の写真の父も、よもや自分が作ってお供えした欄間細工が、目の前に戻ってくるなど予想もしなかったであろうと、玉置徳衛先生で人の思いを大切にしてくださるお心に、あらためて感謝を申し上げます。

○ 天地の親神様の願いを受けて、人の心を大切に生きる生き方は、私達夫婦の願いでもあり、我が家の初代である父からいただいたこのお道を、二代目である私達が、どのようなにして三代目である子供達に、そして四代目となる孫達に伝えることが出来るのか、もう親神様を信じきる以外ないと祈っております。

そして、家における信心

の継承が成り立つためには、教会を基点とした信仰環境が整うことが不可欠ですので、今後、私達信徒自らがこれからの信心のあり方を検証する必要がありますと感じております。

道東地区各教会秋の大祭日程

釧路教会	10月16日(日)	11時
北見教会	11月3日(祝)	11時
十勝教会	11月20日(日)	11時
帯広教会	11月6日(日)	11時
網走教会	10月23日(日)	11時
滝上教会	10月30日(日)	11時

教会掲示板

教会からあれこれ

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五四―四一―三五一
FAX 〇一五四―四一―三六一

「今年の台風」

今年も、北海道にとつても、釧路にとつても、台風の当たり年のようなのだ。

台風7号が、8月17日午後9時5分ごろ、襟裳岬付近に上陸。午後9時頃には温帯性低気圧になったものの、オホーツク側の常呂川が氾濫し、玉葱畑などに被害をもたらした。

台風11号が21日釧路付近に上陸した時、17日ご帰幽になられていた玉置徳衛先生の終祭が西部地区コミュニティセンターで行われ、この時間から朝方まで雨が続き、22日朝

は晴れていた。告別祭が始まる前に、「避難情報が出れば避難してください」との連絡が入り、緊張もしたが、葬儀は何事もなく終了し安堵した。

葬後霊祭を終わって、帰路についた釧路や北見・網走に帰られた先生方は、途中から大雨の歓迎を受けた。この日の情報では、JRが止まっていたが、帯広から札幌行きの最終便が運行するというので、ご祭主の矢代先生や祭員の夕張教会長先生などはその列車で札幌に出る予定だったが、札幌からの帯広行きの列車がどこかの駅で停まったため運休になり、結局帯広でもう一泊され、翌日バスで帰られたようだ。

この時、台風9号の前線

で、大雨が振り続いていて

23日の午後日高地方に上陸しているが、この台風で、道央日高地方では、斜面崩落や河川の氾濫で国道235号線が通行止めになり、胆振地方では汽車の運休が続いたようだ。道北の美瑛で、青い池が、濁流で茶色に濁ったとの情報や、道東の釧網線で土砂崩れで運行できなくなっている。

そして台風10号が8月30日夜から31日未明にかけて、渡島南端をかすって日本海に抜けた。この台風で、これ迄の台風で池盤が緩んでいた上に暴風雨が襲い、18河川が氾濫、鉄道では石勝線、根室線では12月以降まで運行のみ投資が建っていない。

この台風で、被災された方々に、お見舞い申し上げます。さらに、復興には10

年以上かかるとも言われていますが、どうぞ長期計画を立てて、一歩一歩復興されて行くことをお祈り申し上げます。

新聞の解説記事にもありましたが、台風が日本の太平洋岸を真っ直ぐ北上することなどこれまでの台風経路として考えられず、私も東北周辺まで来たら、偏西風の風に押され、太平洋上に去って行くものと想っていた。それがそのまま北上したのには驚きます。特に台風10号は、小笠原諸島・父島付近で台風になり、太平洋岸の日本列島の添って南下、沖ノ鳥島付近（日本の最南端）で、台風の勢力を強め、そのまま北上し、岩手県の岩泉付近に上陸、渡島半島の南端をかすめ、日本海に抜けるなど考えられないことではありません。

社会生活の中でも、何でも有りの風潮になってきていますが、台風の進路も何でも有りと思うようにして、今後の台風情報に気を付けていきたいと思います。（江郷）

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七―二四―七四七四
FAX 〇一五七―二四―七四七四

お陰様で、去る七月三日

に北見教会布教百年記念大祭が無事に仕えられました。道東地区各教会の先生方始め信奉者の皆様には、事前の準備から当日まで色々とご協力頂き、また雨の予報が嘘のような晴天に恵まれ、各教会からは大勢のご参拝を頂くなど、万事にご都合お繰り合わせを蒙りました。これらは、神様、霊様始め皆様の御祈念とお力添えの賜物と有り難く思っております。

ます。改めて厚く御礼申し上げます。

ここ数年、この時期の「光報」には暴風や豪雨による自然災害のを取り上げています。今年は大規模台風による被害が北海道の全土に及び、特にこの道東地方は死者も出るなどの甚大な被害を受けました。年内の復旧は難しい箇所が多くあり、また農業、漁業、酪農に携わる人々は死活問題とのことです。

このような台風直撃はめったにないことかもしれませんが、大きな自然災害は必ずしも珍しいことではなく、北見の初代の信者さんの何人かは最初常呂川沿いに入植した人も多く、何度も氾濫する川の被害を受けてこの北見に移り住んだと聞いています。今回のこ

とで、災難は忘れた頃にやってくる、油断大敵ということをおもい出した人も多かったのではないのでしょうか。

今年の道東地区では江郷美代様、玉置徳衛先生とかげがえのないお二人が神様のもとへ旅立たれました。お二人のご葬儀も豪雪や豪雨の影響を受けましたが、おかげを頂き無事に仕えられました。祭員ご用にお使い頂き、せめてもの御礼が出来ましたことは有り難いことでした。

悲喜交々の一年、百年の記念の年もあと二ヶ月余り、思い通りにならない天地を相手に開墾の苦労を重ねた人々とその中で教えの道の開拓に命を捧げた先生方の志、それらの開拓の精神の重さを一層感じる……秋です。
(矢代)

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―二二一六八三五
FAX 〇一五五―二二一六八三五

今年の旭岳の初冠雪は平年より4日遅く、9月29日で昨年と同じでした。帯広における初霜も朝夕寒くはなりませんが昨年より遅くまだのようです。

最近の気象に変化があるように思われます。台風の数はい少ないようですが大型の台風がありました。そして北海道、特に道東地方に、8月17日水曜日に台風7号が上陸したのち、21日日曜日には台風11号、そして、23日は台風9号が上陸し、1週間で3つの台風が上陸しました。北海道で一年に台風が三回上陸するのは観測史上初めてのことだそうです。その影響で大雨による被害も発生しています。さらに

東北地方を通過していきましたが、台風10号の影響で、記録的な大雨となり、河川の氾濫や浸水の被害が相次いでいます。特に日高山脈周辺で大雨となり、十勝地方では29日から31日正午までの降水量が300ミリを超えた所がありました。

この度二つの大きなおかげを頂きました。一つは台風7号の強風によって午後6時頃教会の杏の木が隣の家と教会の間にバリバリという大きな音をたてながら倒れてきました。木が隣の家倒れる、反対に教会側に倒れればまた大きな被害になるところでした。次の日年寄り3人と孫達でチェーンソーで一本一本小さく切り整理をしたところがあります。

二つ目には、31日の早朝、教会から「避難勧告」のエ

リアメール（気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、地方公共団体が発信する災害・避難情報）が届いたと電話がありました。それは「札内川」と「十勝川」が氾濫危険水位を越えそうだったということです。私は札幌に出張中で、とにかく「避難勧告」発令されたならすぐに教会長を起こし近くの避難所に行くことを伝えました。また近くにいる信奉者にも避難するように電話をしたところです。避難所にはすでに100名ほどの方々がいたそうです。朝食用にレトルトの「山菜おこわ」が支給されましたが、その後避難が解除になりました。なかなか美味しい「山菜おこわ」でした。

自然の力は大きいもので、生命を生み育み自然を作り

ます。また壊し再生します。自然災害からの防御や社会的・経済的基盤の整備のための技術（土木技術）が進んでも人間の力には限りがあり本当に小さいものと感じました。

しかし、私達はそれ以上に力を頂くのは金光様の祈りそれぞれの祈りがあり支えられているということがあります。ありがたいことに本部の先生初め多くの人から心配の電話を頂きました。皆さんに祈られていることです。改めて人のことを祈ることをはじめ、九州地方では毎回のように台風が襲います。対岸の火事と思われません。この度、清水町や南富良野町そして災害に遭われ亡くられた御霊の立ち行き早期の復興を祈らずにはおれませぬ。
(田中)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二一四三三三九五四
FAX 〇一五二一四三三三九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

「十勝の大先生を偲んで」

玉置徳衛先生のお葬儀に際し、私もお供物の設えや連合会長としての弔辞の御用で参拝のおかげを蒙りました。

台風9号の影響で小さな河川さえ濁流となり氾濫するなどありました。御縁り合わせを頂いて、行きも帰りも風雨がいったん落ちていた時間に、無事に行ってくる事ができました。

大先生は、享年八十五歳であられました。どうぞ人生最後の祭典としての終祭のその日、八十六歳の

誕生日をお迎えになりました。また、本年は十勝教会初代教会長、玉置藤太先生、九十年の式年の年にあたり、四月には御大祭に合わせてその御祭事が仕えられました。そうした曰くの本年に神上がられた大先生、きつと初代先生のお徳を慕われ、さらなる十勝教会のご比礼を願われることであられたのでしよう。

皆さんもご存じのように、

大先生は北海道教務所長や教会教師議員、道東地区連合会長など御用に邁進され、私たち後人を牽引くださいました。そうした重要なお働きに、金光様や教務総長、北海道教師会長からの弔辞も頂かれ、教外にあつては池田町社会福祉協議会や民生委員などのお役に於いて、福祉事業の刷新に努められ、町長さんからも

その日一番長い弔辞をお受けになっていました。

通常、終祭に参拝者が多くなり、告別式には平日の日中にあたることもあつてか一般の参拝者は少なくなつてしまします。ところが大先生のお葬儀では両日とも多くの参拝者となりました。弔辞といい参拝者の多さといい、お積みになった徳の高さが偲べれます。

現十勝教会の新築落成報

告祭をお仕えになった折、「神奉る心に神居ますなり奉れ我が身を神の宮居と」という芸備教会初代のお歌を引用なさつて、いよいよ心引き締めて信心を進めて参らねばなりませんと大先生がご挨拶になつたのを覚えています。施設は立派になつたが、その中においてしっかりと教会としての中身を、教師

も信者も培っていかねばならないと仰りたかったのだと思います。

私が教会を後継してから、初めて大先生が綱走にご参拝になった折り、拝礼の後、御神前を見上げて、大先生はポツリと仰いました。

「この御神前は神様が活き活きとしておられる」と。

後継間もない新米の私にとって、これ程有り難く励みとなる言葉はございませんでした。その後も何かと心にかけて頂き、お祈り添えを頂いてまいりましたが、お葬儀に際して、弔辞の御用を頂きましたので、そうした事どもが種々と思い出されて、感謝の言葉を申し上げたしだいです。

大先生、こんにちまでの御神勤、衷心より御礼申し上げます。本当にありがと

うございました。ここからの御霊様としてのお道立と十勝教会のご比礼をお祈りいたします。

(菊川)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二
TEL 〇一五五七一一二二三二
FAX 〇一五五七一一四二二三

この度の台風・大雨によって被害を受けられたみな様からお見舞いを申しあげますと共に、一日も早い復旧復興を御祈念申しあげます。

○

十勝教会三代教会長玉置徳衛先生の帰幽、葬儀式に際しましてはご多忙の折、また悪天候にもにもかかわらずご会葬、ご弔意を賜り、且つ過分の御玉串料に預かり、みなさまのご厚情まことにありがたく改めて御礼申し上げます。

皆様のお祈り添えの中、この10月2日に五十日祭・合祀祭も無事に終え、9月14日には教主金光様より玉置衛が教会長に任命されましたこと併せてご報告致します。

さて、まさに徳衛先生がご帰幽になられた8月17日には台風7号、終祭の日には台風11号、葬儀の終わった次の日に台風9号と、次々に台風がやって来ましたが、おかげをいただきお葬儀の時には太陽まで顔を出すほど式にはまったく影響もなく、関係者一同の「徳衛先生は雨男だったんだらうか？」との疑問も「やはり先生のお徳に天地の神様がお応えくださった「なー」という感慨にかわったのでした。

ただし、祭主をおつとめ下さった函館教会長先生はじめ遠方からご会葬いただいた皆様には大変なご苦労をおかけしたのでありますが、それでも「徳衛先生のお葬儀の時は大変だったなー」といつまでも記憶にとどめていただけではないでしょうか。そんな徳衛先生のお葬儀から一週間ほどたった日曜日、教務センターの用事で土別教会へ向かうこととなりました。

池田町から土別市へJRで行こうとするととても不便です。そこで自然と車を使うことになるのですが、車で土別へ向かうのなら、三・国・峠を抜け層雲峡を経由するのが最短ルートです。ただし、池田から三・国・峠まで国道を通っているのは交通量も信号も多く時間がかかります。当然私を含め地元の間人は抜け道を通ります。交通量も少

なく、取り締まりにもあまり出くわすことのない抜け道です。その日も快適に抜け道を進んでいました。

ただ、道中気になることが

一つ。到着時間を計るためにカーナビをつけていたので、そのカーナビがしきりに「層雲峡経由ではなく富良野経由で行け」と指示するのです。普段なら最短ルートで進むよう指示してくれるのですが、奇妙に思いつつも「地元の道は機械より私の方が詳しい」とカーナビを無視し、そのまま抜け道を通り三國峠の麓へ出ました。

まったくそうです。そういえばニュースで三國峠のあたりで記録的豪雨を観測したと言っていたよ

うな。しょうがないのでカーナビの指示通り富良野を経由して士別へ向かうルートを進みます。その道中、国道の掲示板には「三國峠通行止め」の表示が。そう、抜け道を使わず国道を進んでいれば事前に峠が通れないことは分かったはずなのに。そしてカーナビがしきりに「ルートを変更しろ」と言っていたのは、機械が通行止めの情報を受信しそれを教えてくれていたからなのです。でもそれはもう過ぎてしまったこと。気を取り直して経由地の富良野を目指します。

しかし「観光シーズンで日曜日の富良野、特に市街を抜ける国道は車が多くの時間がかかる」のは自明。

そこで、再びカーナビは無視、

これも勝手知ったるルート、富良野市街を一切通らない抜け道を進みます。が、数キロ進んだところでなんとここにも「災害通行止め」の看板が！むなしくUターンして再び国道へ。そういえばニュースで富良野近辺も豪雨が降ったとか言っていたような。結局なんだかんで予定時間から大幅に遅れ「申し訳ありません」頭を下げてつつ士別教会の玄関をくぐったのであります。何事も近道をしようとする

親切に声を掛けてくれていたのに、自分が正しいと思いついて一度失敗しているにもかかわらずまたく反省せずと同じ失敗を繰り返す。色々と勉強をさせられた台風のものでした。(玉置)

神人あいよかけよの生活運動
願 い
御取次を願 い 頂き
神のおかげにめざ
お礼と喜びの生活をすすめ
神心となって 人を祈り 助け 導き
神人の道を現そう

行事報告

▼平成28年度総会

・月 日 平成28年 3月27日 (日)

・会 場 北見教会

・内 容 平成27年度活動報告・会計報告

平成28年度活動計画・予算について

委員懇談「これからの教会 これからの信心」

・出席者 16名 (連合会役員、委員、運動推進員)

※総会終了後、研修会企画会を行った

▼平成28年度道東地区教会連合会交流会

・月 日 平成28年 6月11日 (土)

・内 容 帯広観光 柳月スイートピアガーデン見学

ばんえい競馬見学

懇親会 (会場、帯広教会)

・当番教会 帯広教会

・参加者 観光11名、懇親会19名

▼道東地区教会連合会研修会

「神人あいよかけよの生活運動」道東地区集會

・月 日 平成28年 6月12日 (日)

・会 場 帯広教会

・テーマ 「お礼をしたことされたこと」

・内 容 KJ方を使い「お礼」をされたことなどを考える中で、共に喜ぶ、人の痛みに寄り添う在り方を考える。

・参加者 19名

▼平成28年度役員会

・月 日 平成28年10月9日 (日)

・会 場 北見教会

・内 容 28年度活動内容、会計報告

29年度活動計画案、予算案について

連合会長選挙

連合会信徒会委員長選任報告

役員懇談

・出席者 9名

※教務センター・連合会共催行事

▼みどりのひろば (北海道教区少年少女キャンプ)

・月 日 平成28年8月5日 (金) ~ 7日 (日)

・場 所 安平町早来ときわキャンプ場、千歳市内

・内 容 災害について考えてみよう

地震体験、避難所疑似体験など

講話 東日本大震災の体験談

井上直文師 (石巻教会長)

・参加者 道東地区から7名 (子供4、大人3)